令和５年度　入学者選抜試験問題

国　　語

実施日時：令和５年１月１９日（木）　９：００～９：５０

＊下記の**〈注意事項〉**をよく読み、監督者の指示を待ちなさい。

〈注意事項〉

― 開始前 ―

１．監督者の〈開始〉の指示があるまで、この問題冊子の中を開けない。

２．解答用紙には、解答欄のほかに下記２つの記入欄がある。その説明と解答用紙の**「注意事項」**を読み、２項目の全てに記入またはマークする。

　・受験番号欄　上段に受験番号を記入し、下欄にマークする。

　・氏名欄　　氏名・フリガナを記入する。

３．解答用紙に汚れがある場合には、挙手で監督者に知らせる。

４．この表紙の受験番号欄に受験番号を記入する。

― 開始後 ―

１．問題は２ページから１９ページまでの各ページに印刷されており、第１問～第２問の２題で構成されている。
開始後確認してページの落丁、乱丁、印刷不鮮明等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。

２．解答は全て解答用紙の所定の欄へのマークによって行う。たとえば、
［　1　］と表示のある問いに対して２と解答する場合は、次の**〈例〉**のように解答番号１の解答欄②をマークする。

〈例〉

1	解　答　欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	①	●	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⓪

３．マークする際はＨＢの鉛筆でマーク欄を適切にマークすること。

４．質問等がある場合は、挙手で監督者に知らせる。

５．試験開始後の途中退室はできない。

受験番号					

（問題は次のページから始まる）

第1問　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（配点50点）

障害に対する考えに変化があったのは、一九八〇年前後でした。障害はどこにあるのか、宿っているのか、存在しているのか、そういった考え方がガラッと変わりました。

一九七〇年代までは、私を例にして単純に考えるなら、障害とは私の身体の中に宿っているものでした。しかし端的に言って、八〇年代には身体の外になったわけです。

エレベーターを設置していない建物は、昇れない私の身体の側ではなく、建物の方に障害が存在しています。ほかにも、少数派的な特性の身体を持っている人を受け容れない社会制度や建物や道具、人々の常識や知識、価値観、そういったものの中に障害が宿っている、という考えに変わっていったわけです。このパラダイムシフトを標語的、スローガン的には「A医学モデルから社会モデルへ」と言えるでしょう。医学モデルというのは、「障害は身体の中にあるのだ」という考え方、それに対して社会モデルは、「障害は社会の側にあるのだ」という考え方です。

ただ、ここは勘違いされやすいので少し丁寧に(ア)ホソクします。社会モデルは医学を否定しているわけではありません。正確に言うと、社会モデルは次のような考え方になります。

「皮膚の外側にある」という点では違いはありませんが、先ほど私は「社会の側にある」と言いました。でもそれでは言葉が足りないので修正します。「障害は、社会環境と少数派との間にある」――環境に帰属できるのではなく、環境と少数派の間に帰属できるのです。（　a　）、医学を否定しないことになります。

環境側に障害が存在するのであれば、環境側だけを変えることがソリューションになります。でも、（　甲　）の中にあるわけですから、どちらが変化するか、そこまでは制限していません。個人が環境に近づく、というオプションもあれば、環境が個人に近づく、というオプションもあるわけです。変数、定数という考え方をすればもっとわかりやすいかもしれません。社会モデルの考え方が新しかったのは、環境の側も変数である、という考え方を切り開いたことです。

ちなみに「医学」と「医学モデル」は、同じ医学という言葉を使っていますが、まったくの別モノです。医学モデルという考え方は、「個人の身体は変数だけど、社会環境は定数だ」という考え方です。医学では一切、そんなことは言ったことがありません。

医学モデルは環境側を定数にしてしまうという、暗黙の前提がある考え方のパッケージです。対する社会モデルは、少数派の身体も社会環境の側も変数という考え方。変数の数が増えると、最適化が起きます。一部だけが変数で、環境の側が定数だとみなしている時の最適なソリューションに比べ、両方変数となる――局所最適化と全体最適化の違いです。社会モデルでは、より効率よく、より負担が少ない形で障害のモデルが解決できるようになります。

ここで当時の時代背景をおさらいしておきましょう。

八〇年代に社会モデルへ変化した背景には、少なくとも大きく[B]二つの要因がありました。

一つは、国のお金がなくなったこと。特に先進国の財政状況が悪化してきたことです。その結果、局所最適化が許容できなくなりました。本当に効果のある方法を用いて、公的なお金を使わなければ、という認識が高まったのです。オイルショックが七三年にあり、その後に医学の世界で次々と起きたのは、権威主義の失墜でした。偉い先生が言ったから正しい、という時代は終わりました。（　b　）、偉い先生が間違うこともあり、それによってお金の(イ)ムダ遣いが起きてしまうからです。

それに取って代わったのは、統計学に基づくエビデンス主義でした。《1》

偉い先生が言うからではなく、統計学がそう言うからそれを信じましょうと。“Evidence Based Medicine（EBM）”――統計的根拠に基づく医学が、改めて重要だと言われるようになり、これまで治療効果があると言われてきた方法が片っ端から統計学ではかられました。当時流行（はや）った言葉で〝Nothing works（何も効果のあるものはない）〟があります。〇〇療法といった、これまでまことしやかに効果があるとされたものを、医学的方法で統計的に調べると、ほとんど効果がないことが証明されたのです。そんなふうに、医学が自ら自分の限界を自覚し始めたのが八〇年代です。これが一つ目の社会モデルへの追い風です。

二つ目の要因は障害者運動です。

七〇年代には、それまでマイノリティと呼ばれ、同化圧力や排除圧力にさらされてきた人たちによる様々なマイノリティ運動が花開きました。黒人の解放運動しかり、女性運動しかり――いずれも歴史は長いのですが、国際的な潮流になったのはその頃です。少し遅れてＬＧＢＴや精神障害者の運動が続いていきました。《2》

差別には、同化と排除の二つがあります。一つは「自分たちと同じようになれ」。もう一つは、「同じようになれないなら、どこかへ行け」と

いうものです。いずれも社会環境を定数と見なすアプローチで、多様性を阻害するという意味では同じです。

それはおかしい、とマイノリティが声を上げるようになったのが当時です。同時多発的にマイノリティが社会の方を変数化しましょう、という動きが生まれました。

全体を最適化させようとする一つ目の考え方は、どちらかというと右派的です。効率性、財源といった所から来ました。二つ目の考え方は左派的です。（　c　）社会モデルという点については、両者は対立点になりませんでした。そこで八〇年代に大きく社会モデルに舵がきられたわけです。《3》

今日、障害の問題を考える上で、社会モデルを否定する人は、不勉強な人を除けば、右も左も反対する(ウ)ヨチはありません。ちゃんと問題を考えていれば、どちらからアプローチをしようと、社会モデル的なアプローチは必須である、それが現代の障害を考える基本線になります。

私自身について言えば、社会モデルに変わったことで、とても生きやすくなりました。私の体は治さなくていいんだ、と。これまで毎日六時間もかけて、痣だらけになって、親子関係もギクシャクするという対価を払ってやってきたこと、それには全然効果がなかった。私も子ども心にわかるわけです。まだ医学モデルが信じられていた小学校入学頃までは、主治医の所に行くと、「お母さん、とにかく私を信じてついて来ればいいんです」と。でも八〇年代になると、「無理しなくていいですよ」などと、同じ医師の言っていることが変わってくるわけです。子どもでも「嘘をついていたんだ」とわかるわけです。

家族みんなで、どうやって生き延びていいのかわからない、と(エ)イキされた感じがありましたが、そこへ社会モデルの考え方がやってきたのです。

私の出身地である山口は当時、都心より五年は遅れて情報が届くと言われていました。社会モデルが上陸したのもだいぶ遅れた、小学校五年生の頃です。《4》

しかしそれによって、街の中で障害をもつ人、しかも一見すると私よりも障害の重そうなおじちゃん、おばちゃんをよく見るようになりました。重い障害をもつ人たちの姿が街中に溢れかえる……というと大袈裟かもしれませんが、私のパースペクティブからすると、本当にそれに近い感じでした。

私の父親は市役所に勤めていて、奇しくも障害者福祉課担当だったため、父経由で色々な情報も届いていました。私よりも重い障害の人たち

が街に出ていて、風の噂（うわさ）ではデートをしたり子どもを持ったり、親元を離れてアパートを借りて暮らしたり、悠々自適にしているという話が、小さい街に流れていきました。《5》

医学モデルの時代は、障害をもったままでは外に出られませんでした。すると選択肢は、健常者になって社会に出るか、健常者とは違うどこか……山奥の隔離された施設に入って過ごすかの二択でした。（　乙　）は、端的に言うとそういうことです。

それが、むきだしの自分のままで、地域社会で人生を謳歌（おうか）できるようになったのかもしれないと。［　X　］です。目の前に本当にそういう人たちがいるのだから。

それが社会モデルとの最初の遭遇でした。障害をもつ多くの方にとって、これでようやく息が吸える、社会の中に居場所ができる、そう思わせてくれる思想と(オ)ジッセンの大きなうねりだったわけです。

ここまでが一番お伝えしたかった社会モデルについての骨子になります。

（熊谷晋一郎「液状化した世界の歩き方」『わたしの身体はままならない』所収）

問一　傍線部(ア)～(オ)のカタカナの部分を漢字に直す場合、最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア)［1］、(イ)［2］、(ウ)［3］、(エ)［4］、(オ)［5］

(ア)　ホソク　①舗　②哺　③捕　④補　⑤穂

(イ)　ムダ　①惰　②堕　③駄　④唾　⑤妥

(ウ)　ヨチ　①余　②与　③預　④誉　⑤予

(エ)　イキ　①飢　②忌　③騎　④毀　⑤棄

(オ)　ジッセン　①詮　②戦　③践　④羨　⑤遷

（配点　各2点）

問二　本文中の（　a　）～（　c　）に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は（　a　）6、（　b　）7、（　c　）8

（配点　各2点）

①　くわえて　　②　ですから　　③　ところが　　④　ところで　　⑤　なぜなら

問三　空欄（　甲　）、（　乙　）に入るものとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は(甲) 9、(乙) 10

（配点　各4点）

（　甲　）

①　割合　　②　数学　　③　現実　　④　法律　　⑤　関係

（　乙　）

①　従属と支配　　②　一般と特殊　　③　権利と義務　　④　同化と排除　　⑤　平凡と非凡

問四　空欄 X に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 11 （配点　4点）

① 一を聞いて十を知る
② 鰯（いわし）の頭も信心から
③ 千里の道も一歩より
④ 百聞は一見にしかず
⑤ 待てば海路の日和あり

問五　次の一文は、本文中の《1》～《5》のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 12 （配点　5点）

私はそれに胸をときめかせました。

① 《1》　② 《2》　③ 《3》　④ 《4》　⑤ 《5》

問六　傍線部A「医学モデルから社会モデルへ」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 13 （配点　5点）

① 少数派の身体も社会環境も変数であると考える社会モデルのほうが、医学モデルよりも、効率よく、公的な負担も小さく、障害のモデルを解決できる。

② 少数派の身体は変数であるが、社会環境は定数であると考える医学モデルのほうが、社会モデルよりも、効率は悪いが、公的な負担は小さく、障害のモデルを解決できる。

③ 少数派の身体も社会環境も変数であると考えて全体最適化を図る社会モデルのほうが、医学モデルよりも、公的な負担は大きいが、良質に、かつ、効率よく、障害のモデルを解決できる。

④ 少数派の身体は変数であるが、社会環境は定数であると考える医学モデルのほうが、社会モデルよりも、局所最適化によって公的な負担は大きいが、その分、効率よく、障害のモデルを解決できる。

⑤ 少数派の身体も社会環境も変数であると考える社会モデルのほうが、局所最適化しかできない医学モデルを超えて全体最適化を可能とし、人道的に障害のモデルを解決できる。

問七　傍線部B「二つの要因」とあるが、**その内容に該当しないもの**を、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 14 （配点　6点）

① 先進国の財政状況が悪化して、効率的に障害のモデルを解決する施策が求められた。

② 医学の世界では権威主義が失墜し、統計学に基づくエビデンス主義が取って代わった。

③ 統計的に調べると、従来の治療法に効果のあるものは何もない事実が明らかになった。

④ 同時多発的に、マイノリティが社会の方も変数化してしまおうという動きが生まれた。

⑤ 全体を最適化させようという志向において、右派も左派も対立することがなかった。

問八　本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 15 （配点　6点）

① 一九七〇年代までは身体の中に宿っているものだった障害は、一九八〇年前後に身体の外に追い出され、そもそも障害というものはどこにも存在しないという思潮が準備され始めた。

② 個人の身体は定数であるが、社会環境は変数であると医学は考えた一方で、個人の身体は変数として扱えるが、社会環境は定数としなければならないと医学モデルは考えた。

③ 一九七〇年代に、まず黒人の解放運動や女性運動が国際的な潮流になり、少し遅れてＬＧＢＴや精神障害者の運動が続いていき、様々なマイノリティ運動が花開いた。

④ 一九八〇年代になると同じ医師でも言っていることが変わってきて、筆者は子どもながら医師が嘘をついていたことが分かり、これは筆者がＥＢＭに傾倒する契機となった。

⑤ 一九八〇年代の日本には、社会思潮にも医療の質にもまだ大きな地域間格差があり、地方都市の住民は大都市の住民よりもさまざまな不利益を被っていた。

第２問　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（配点50点）

世界的に見ると、19世紀には動物園の目的は「教育」「研究」「娯楽」の３つと言われていたようです。ここに20世紀に「種の保存」が加わったのですが、ここには「保全」や「自然保護」を並べることもあります。A「種の保存」と「保全」「自然保護」は明確な違いがあるとは言いにくいのですが、ニュアンスや使われ方はやや異なります。動物園で「種の保存」と言うと、絶滅の危機にある希少な動物を飼育繁殖して増やし、必要なら野生に返す取り組みが注目されます。このような方法は「（生息）域外保全」と呼ばれ、後で説明するヨーロッパバイソンやアラビアオリックスなどの事例があります。《1》

しかし、これは動物園業界の話で、本来「種の保存」には動物を生息地で守る「（生息）域内保全」を含みます。守る対象を動物だけでなく生物の多様性と考えれば、「種の保存」は「生物多様性の保全」と同じで、「自然保護」に重なります。「自然保護」と「生物多様性の保全」は使われてきた歴史の差こそあれ本質の部分は重なっており、動物園の業界では「保全」を使うのが世界標準になっています。ただし、「保全」という言葉には、保全のための教育（保全教育）や保全のための研究を含むので、４つの目的を並べるのは適切とは言えません。（　a　）、世界の動物園の考え方は４つの目的を並べるのではなく、教育や研究といった要素も含めて「保全」を掲げる方向に変化しています。

a　19世紀に３つだった目的が４つになったのも、20世紀初頭のアメリカ公園管理者協会の機関紙「公園＆レクリエーション（Parks & Recreation）」での議論が転機だったようです。

b　最初に種の保存に取り組んだのはニューヨークのブロンクス動物園で、１８９９年の開園当初からアメリカバイソンを増やして野生に戻しています。

c　日本人にはわかりにくい話ですが、今でも米国の国立公園はハンティングを許可して収入を得ながら、野生動物が増えすぎないように管理しており、私も米国にいたときに自家製バイソンジャーキー（干し肉）をもらったことがあります。

d　この動物園を運営したニューヨーク動物学協会（New York Zoological Society／現在の野生生物保全協会：略称ＷＣＳ＝Wildlife Conservation Society）の設立に貢献したのが、後に大統領になるセオドア・ルーズベルトで、紳士のスポーツとしてのハンティング

（狩猟）を続けるために自然保護に力を入れました。
e　そして、１９２４年にアメリカ動物園水族館協会（略称ＡＡＺＰＡ／現在のＡＺＡ）がアメリカ公園管理者協会の支部としてスタートしました。

さらに、１９２５年にヨーロッパバイソンが野生絶滅（飼育個体以外が絶滅）したため、１９３２年には血統登録を始めました。血統登録というのは動物の家系図づくりで、ヨーロッパバイソン以前に行なっていたのはサラブレッドなどのウマくらいでした。（　b　）、ウマとヨーロッパバイソンのような野生動物では使い方が正反対で、ウマの場合は優秀な個体を生み出すために(ア)センバツしますが、野生動物の場合、より多くの遺伝子を残すために均等に繁殖させようと苦心します。とくに気を使うのは［　X　］です。このような努力の結果、ヨーロッパバイソンは１９５２年から野生復帰し、現在はポーランドを中心に４０００頭が生息しています。《２》

今では※ＷＡＺＡが約１０００種１００万個体の国際血統登録を行なっています。日本では※ＪＡＺＡがとりまとめ役ですが、実際には全国の動物園が分担していて、私が勤めていた日本平動物園はレッサーパンダとオオアリクイの担当です。これは世界的にも同じで、レッサーパンダの担当はアムステルダム動物園（オランダ）、オオアリクイの担当はドルトムント動物園（ドイツ）といった分担をしています。このように、各動物園が飼育している動物の情報交換をして、近親交配しないように動物をやりとりするのが現在の動物園の常識です。この際に重要なのがブリーディングローン（ＢＬ）の仕組みで、繁殖のために無料で動物を貸し出すのですが、「子どもが産まれたら、最初の子は貸し出した動物園の所有とする」といった約束をします。なお、産まれた子が貸し出した動物園に来るかどうかはケースバイケースで、さらに別の動物園に貸し出すことも多いので、その動物園で飼育展示している動物と所有権の関係は(B)相当ややこしい状態になっています。そうやって動物園どうしで動物を貸し借りしながら、協力して繁殖を進めているのです。今でこそ常識になったＢＬですが、日本で定着したのは東京都の動物園による「ズーストック計画」、とくに上野動物園のゴリラの群れづくりの影響が大きかったと言えます。私も日本平動物園にいたときに「トト」というメスのゴリラを上野に送り出すにあたって、幼稚園の子どもたちを招いて「トトを送る会」を行なったことをよく覚えています。《３》

このような取り組みを語るうえで欠かせないのが国際自然保護連合（略称ＩＵＣＮ）と、その下部機関である保全計画専門家グループ（ＣＰＳＧ）です。ＣＰＳＧは１９７９年の発足当初、飼育下繁殖専門家グループ（ＣＢＳＧ）と名乗っていたこともあって、中心は動物園関係者で、

ＷＡＺＡとＣＰＳＧの年次大会は同じ場所で連続開催するのが通例です。そのＩＵＣＮが１９７５年に動物園に(イ)カンコクしたのが「野生動物の飼育展示を正当化するには、適切な施設と研究、解説などにより動物の大切さが理解されるよう努めなければならない」ということです。正当化という考え方も馴染みがないかもしれませんが、欧米を中心に「正当化できないことは、してはいけない」と考える人は多くいます。そして、世界の動物園が保全を軸として自らのあり方を変えてきた背景には、貴重な野生動物を捕獲して飼育展示することが動物を絶滅に追いやっていないかという批判と(ウ)ジカイがありました。だからこそ、動物園は保全を掲げて自然保護に貢献しようとしているのです。

かくして、動物園の正当性を確保するためにＷＡＺＡが策定したのが『世界動物園水族館保全戦略（略称ＷＺＡＣＳ）』です。ここで言う「保全」は守備範囲がとても広く、域外保全や、域内保全への技術的・資金的協力、保全教育（環境教育）、動物園という施設自体の環境負荷の軽減、なにより職員を含めた意識向上など総合的な「保全文化の創出」を提唱しています。そして、世界中の多様な関係者が連携した「ワンプランアプローチ」を掲げます。なお、獣医学の世界では、人間と動物、それに生態系（環境）の健康維持を一体的に考える「ワンヘルス」という言葉がよく使われるようになっています。世界はつながっており、私たち人間の影響力が大きくなりすぎた現在、環境を保全しなければ豊かな暮らしを続けることはできないのです。《４》

「正当化できないことは、してはいけない」という考え方を紹介しましたが、じつは動物園への批判は日本でも欧米でも古くからずっとあります。たとえば、上野動物園は明治時代にゾウの飼育方法を批判されましたが、※これは第４章で紹介します。

最近、日本で注目されるのはゾウの単独飼育問題で、とくに２０１５年には井の頭自然文化園の「はな子」を巡る世界的な騒動がありました。これは、コンクリートの床と壁という施設での単独飼育を見た日系カナダ人が衝撃を受け、「母国のタイに送り返そう」とネット上で運動したものです。何十万人もの賛同と資金が集まり、ゾウの専門家が来日して相談した結果、飼育環境をなおすことになりました。《５》

１９９６年に大きな話題になったのは地球生物会議ＡＬＩＶＥ（設立者は野上ふさ子さん）が、英国の動物園査察官を招いて動物の飼育環境を調査したズーチェックです。このとき、前の上野動物園長だった増井光子さんは「日本の動物園もけっして百点満点とはいえない」「彼らの批判、指摘にも耳を傾けるべき」と新聞紙上で語っています。それ以前にもサファリパークの建設反対運動などがあり、ここで活動したエルザ自然保護の会（設立者は藤原英司さん）は京都水族館の設置反対運動に参加し、２０１４年には水族館のイルカ導入を問題視したＷＡＺＡ本部（スイス）での抗議活動にも加わりました。なお、水族館のイルカ導入問題はＪＡＺＡの会員資格停止を含む大きな問題になったので、※第５章であ

らためて扱います。

欧米ではこのような批判はもっと激しく、イルカショーをしているドイツの動物園では、来園者の多い日曜日には活動家が正面ゲート前で「動物園に行くな」とデモを行なうそうです。先ほど述べたブロンクス動物園はホッキョクグマの飼育をやめ、ゾウも今いる個体を最後として撤退を表明しています。前述したように、動物園は志の高い野生動物展示施設で、ブロンクス動物園は世界を代表する先進動物園ですから、最低基準をクリアすれば良いという話にはなりません。志の高さに見合う水準でゾウやホッキョクグマを飼育できないなら、飼育から撤退するのが彼らの判断なのです。動物飼育への批判の共通点は、個々の動物への思いから出発していることで「［　　Y　　］」といった表現がよく用いられます。重要なのは、ｃこのような批判に向き合って自らを高める努力こそが、動物園を成長させてきたことです。

（佐渡友陽一『動物園を考える　日本と世界の違いを超えて』より）

〈注〉※ＷＡＺＡ……世界の動物園や水族館から構成されている国際組織である世界動物園水族館協会。
※ＪＡＺＡ……日本の動物園や水族館から構成されている公益社団法人日本動物園水族館協会。
※これは第４章で紹介します。／※第５章であらためて扱います。……引用部は書籍の第１章である。

問一　傍線部(ア)～(ウ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は(ア) 16 、(イ) 17 、(ウ) 18

(ア)　センバツ

① ハバツの争いが生じる。
② バッセキに名を連ねる。
③ キバツな服装を好む。
④ ケイジバツを科される。
⑤ 逆賊をトウバツする。

(イ)　カンコク

① 骨董品をカンテイする。
② 保険加入をカンユウされる。
③ センスイカンを建造する。
④ イカンの意を表明する。
⑤ 訪日団をカンタイする。

(ウ)　ジカイ

① 欠席者はカイムだ。
② コウカイしてもしきれない。
③ さつまいもはカイコンである。
④ カイセキ料理を楽しむ。
⑤ 台風をケイカイする。

(配点　各2点)

問二　本文中の（　a　）、（　b　）に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。解答番号は（　a　）19、（　b　）20

（配点　各2点）

①　くわえて　　②　さて　　③　もしくは　　④　ただし　　⑤　ですから

問三　空欄 X に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 21

（配点　4点）

①　希少な動物の飼育　　②　生物多様性の保全　　③　動物の所有権の調整

④　国際的な血統登録　　⑤　近親交配の回避

問四　空欄 Y に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 22

（配点　4点）

①　動物園は動物の自由を奪う監獄

②　単独飼育は正当化できない犯罪

③　日本の動物園は最低基準未満

④　動物の劣悪な飼育環境の放置

⑤　人間と動物、生態系は一つ

問五　次の一文は、本文中の《1》～《5》のどこに入れるのが最も適当か。次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 23 （配点　5点）

この他にも、シフゾウ、モウコノウマ、アラビアオリックスなどが野生絶滅し、動物園で繁殖した個体が野生復帰しました。

①《1》　②《2》　③《3》　④《4》　⑤《5》

問六　本文 □ の中のa～eの各文を意味が通るように並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 24 （配点　5点）

① a―b―d―e―c
② b―c―e―d―a
③ b―d―c―a―e
④ c―a―b―e―d
⑤ c―e―a―d―b

問七　傍線部Ａ『種の保存』と『保全』『自然保護』は明確な違いがあるとは言いにくい」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 25 （配点　５点）

① 「自然保護」と「生物多様性の保全」は使われてきた歴史の差こそあれ、本質の部分は重なっているため、動物園の業界では「保全」という言葉を使うことが世界標準になっており、動物園の正当性を確保するためにＷＡＺＡが策定したＷＺＡＣＳは「保全文化の創出」を提唱している。

② 「自然保護」と「生物多様性の保全」は本質的に同義であるものの、「保全」という言葉は守備範囲がとても広く、域外保全や域内保全への技術的・資金的協力、保全教育（環境教育）、動物園という施設自体の環境負荷の軽減まで含むので、「種の保存」とはやや趣を異にする。

③ 世界の動物園の考え方は、教育や研究といった要素も含めて「保全」を掲げる方向に変化しており、動物園職員を含めた意識向上など総合的な「保全文化の創出」を提唱する中で、「種の保存」「保全」「自然保護」は、いずれも同じ意味で用いられるようになってきている。

④ 環境に対する人間の影響力が大きくなりすぎて、環境を保全しなければ人間はもはや豊かな暮らしを続けられないという現実を前に、人間が守る対象を動物だけでなく生物の多様性まで広げれば、「種の保存」は「生物多様性の保全」と同義で、「自然保護」にも重なる。

⑤ 動物園の業界では「(生息) 域外保全」を意味する「種の保存」も、本来は動物を生息地で守る「(生息) 域内保全」を含むというように、「種の保存」「保全」「自然保護」がそれぞれ意味するところは一般社会では大きく異なるが、これらの三語は動物園の業界では同義である。

問八　傍線部B「相当ややこしい状態」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 26 （配点　6点）

① ＪＡＺＡやＷＡＺＡにおいて担う役割が重なるところがあり、繁殖に成功した際に、産まれてきた動物の所属が二重になっている。
② ＷＡＺＡが提唱するブリーディングローンで動物が複数生まれた際に、二頭目以降についてはその所有権が明確に定められていない。
③ ブリーディングローンで生まれた動物をさらに別の動物園に貸し出すこともあり、その動物の所有権が全く別のところにある場合がある。
④ ブリーディングローンで動物を貸し借りすること自体が「保全」の考えに反するという主張があり、完全には正当化できていない。
⑤ ＪＡＺＡやＷＡＺＡ、ＩＵＣＮやＣＰＳＧ、ＣＢＳＧといった関係団体が多すぎて、現状はその役割分担がうまくできていない。

問九　傍線部C「このような批判に向き合って自らを高める努力こそが、動物園を成長させてきた」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 27 （配点　5点）

① 個々の動物への思いに基づく批判や指摘は、野生動物の飼育環境を改善していく契機となるから。
② 外部から耳の痛い批判があるほど、動物園の全職員は気持ちを引き締め、また、士気も高まるから。
③ 批判されてはじめて「正当化できないことは、してはいけない」という原則を再認識するから。
④ 貴重な野生動物を捕獲して飼育展示することが動物を絶滅に追いやっている事実に気づくから。
⑤ 批判に向き合って動物園が自らを倫理的に高めれば、保全を掲げた自然保護に必ず貢献するから。

問十　本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 28 （配点　6点）

① 絶滅の危機にある希少な動物を飼育繁殖して増やし、必要があれば野生に返す取り組みは「(生息) 域内保全」と呼ばれ、ヨーロッパバイソンとアラビアオリックスが最初の成功例だった。

② 繁殖のために無料で動物を貸し出したにもかかわらずブリーディングローンが規定する約束が反故(ほご)にされて、動物園で飼育展示している動物と所有権を巡って動物園間のトラブルがしばしば発生する。

③ 井の頭自然文化園の「はな子」の飼育環境を糾弾する運動は、日系カナダ人の動物愛護運動活動家が開始し、世界全域から何十万人もの賛同と資金を集め、飼育者に飼育環境の改善を迫った。

④ 地球生物会議ＡＬＩＶＥやエルザ自然保護の会をはじめとして、動物の飼育環境について日本国内のみにとどまらず国際的な活動に携わる野上ふさ子さんや藤原英司さんのような日本人もでてきている。

⑤ 世界で最も志の高い野生動物展示施設であるブロンクス動物園は、既にゾウ、ホッキョクグマという順で野生動物の飼育から撤退し、最終的には全野生動物の飼育から撤退すると表明した。

独立行政法人国立病院機構　附属看護(助産)学校
令和５年度　入学者選抜試験問題

国語Ｂ【解答】

受験校		受験番号		フリガナ	
				氏名	

／１００

第１問（配点５０点）

	問一				
	1	2	3	4	5
解答	④	③	①	⑤	③
配点	2	2	2	2	2

	問二			問三	
	6	7	8	9	10
解答	②	⑤	③	⑤	④
配点	2	2	2	4	4

	問四	問五	問六	問七	問八
	11	12	13	14	15
解答	④	⑤	①	③	③
配点	4	5	5	6	6

第２問（配点５０点）

	問一			問二	
	16	17	18	19	20
解答	③	②	⑤	⑤	④
配点	2	2	2	2	2

	問三	問四	問五	問六	問七
	21	22	23	24	25
解答	⑤	①	②	③	④
配点	4	4	5	5	5

	問八	問九	問十
	26	27	28
解答	③	①	④
配点	6	5	6